

連載 地方自治改革の実態⑦ 議員の大半は税金泥棒?!

地方議会の怠慢と税金の無駄遣いを暴く

報酬とボーナスに各種手当や政務調査費とおいしい仕事だからこそ改革は進まない

「八百長と朗読会」で居眠りも

「見識や資質なくともなれる市議」、
「棒読みもつかえてしまう市議もい
て」。これらは相模原市議会を傍
聴している市民団体、相模原市議会
をよくする会が作った「議会川柳」だ。

同会会長の赤倉昭男氏は嘆く。
「議会の現状はあまりにひどい。議
会の雰囲気はものものしいが、予め
用意されたものを読むだけで議論に
中身はないし、離席や居眠りも多い
しかも、改善は殆どされない」

鳥取県知事を2期務めた慶應大教
授の片山善博氏は、以前、地方議会
を「八百長と学芸会」と評した。し
かも、「学芸会以下の朗読会だ」と
いい直したというおまけ付きだ。

住民のよりよい暮らしのために予
算をどう使うかを決める話し合いの

場であるはずの議会で、「八百長」
が罷り通り、あらかじめ決められた
ストーリーに沿った答弁が「朗読」
され、形だけの多数決が行われる…。

昨年あたりから、橋下徹大阪府知
事、河村たかし名古屋市長、竹原信
一鹿児島県阿久根市長ら改革派首長
が議会と対立し、地方議会とその改
革に注目が集まるが、地方議会の実
態は想像以上にひどいようだ。

地方議会は、国政の議院内閣制と
は異なる二元代表制のシステムをと
る。住民は首長と議員を直接選挙で
選び、執行機関である首長と議決機
関である議会はお互いをチェックし
合う緊張関係にある、はずである。

だが、このシステムはほとんど機
能していない。それは、首長提出議
案のうち97〜98割が無修正で可決さ
れているのを見れば一目瞭然だ。全

国の地方議員や市民が参加する「開
かれた議会をめざす会」の代表を務
める奥山たえこ杉並区議会議員は、
議会の予定調和ぶりをこう批判する。

「初めて議会に入ったとき、なんて
壮大な無駄遣いをしているんだろう
と思いました。議員同士で議論する
でなし、請願などに対する結論は先
に決まっていることもあるのです」
首長が議会を「分断統治」するケ
ースも多いという。会派や党に属す
る議員は多いが、特定のグループを
首長が優遇することで競争意識を煽
り、議会を分断するのだ。

「杉並区では中学生まで医療費が無
料になりましたが、その時のやりと
りが凄かった。ある政党の議員が『小
学生まで無料化すべき』と一般質問
したときは、首長は『国や都の責任
で実施すべきこと』と回避したのに、

与党議員が同じ質問をすると『具体
的な検討に入りたい』と答弁、結局
中学生まで無料になりました。連立与
党は『私たちがやりました』と手柄
をアピールしていました(奥山氏)

議員に落第をつけた「通信簿」

予算編成権を持つ首長の権限は大
きい。議会は一丸となって首長をチ
ェックすべきだが、「分断統治」に
よって首長の権限はますます強くな
り、予算案や変な条例がノーチェッ
クで可決されてしまう事態となる。

議員にしてみれば、首長提出の議
案に反対するにはそれなりに調査、
勉強する必要がある。だがまったく
勉強せず、すべて賛成でも責任すら
問われない。夕張市がいい例だが、
市議会が予算の使い方をチェックで
きていれば破綻は免れただろう。



議会は壮大なムダ遣い?!

議会や議員の怠慢に業を煮やし、そんな議会の実態を「見える化」しようとして議会ウォッチングを始める市民グループがここ数年、各地で生まれている。その先駆けが、先述の相模原市議会をよくする会だ。赤倉氏らは、99年から10年以上の間、市議会の本会議と委員会すべてを傍聴し、年4回発行の会報「ザ・ギャラリ」で報告している。

03年の統一地方選の前には議員の「通信簿」を作成。「公約の達成に努めたか」「調査・説得力など議員と

しての資質」などについて各議員をチェックし、秀々落第で評価した。一度も質問をしなかった「落第議員」や、自分の公約を忘れてしまった「不可議員」の実態を知った市民からは、驚きや戸惑い、感謝の声が上がった。一方で議員からは「落選したらどうしてくれる」「弁護士と相談する」などと反発もあつたものの、抗議は2人からだけだったという。

そんな議員たちだが待遇はいい。自治体によって報酬や特権の中身は異なるが、委員会を含め議会の実質会議日数は平均で年間40日前後。「十数分で終わった委員会もあつた」(赤倉氏)というが、それでも年2回のボーナスも出る。議長は手当てに加え、黒塗りの車も利用できる。「杉並区の場合、議員の年収は約1千万円、委員長を務めればプラス約100万円、議長は平議員の1.5倍になる」(奥山氏)という。

視察という名の観光旅行もまだ生き残っている。行き先が遠方なら泊まりとなるため、関東圏の議員の場合、北海道や九州地方に行くことが多い。「博多どんたくの時期に福岡に行った議員もいた」(赤倉氏)

財政状況よりも既得権益維持

カネの使い方に関しては問題も多い。例えば政務調査費だ。支給ゼロの自治体や、1万円以上のみ領収書が必要な自治体などバラつきはあるが、東京都では議員1人に月60万円も支給される。不正流用は各地で見られ、跡を絶たない。自宅用のパソコンを事務所で購入したように見せかけた北海道議、パックツアードパコンコクに「視察」に行った阿久根市議、日付を書き換えた領収書のコピーを報告書に添付した川崎市議――。

奥山氏は、こう打ち明ける。「議員は、政務調査費の使い道を市民にいちいち監視されるのは鬱陶しいな、と思っているはず」

東京新聞は8日5日、「杉並区議会『大連立』の怪 議員報酬アップ狙う?」という記事を掲載した。民主、自民の議員が統一会派を組んだが、政務調査費を廃止して、その分を領収書がいらぬ報酬に付け替える目的ではないのか、という内容だ。福島県矢祭町が議員を日当制にし、

河村、竹原両市長も議員報酬削減を目指していることが注目されるこの時代に、こつそり報酬アップを狙うとはあまりに時代錯誤だ。だが、奥山氏は「行政改革を」とはいうけれど、じゃあ自分の報酬を減らそうという声は聞こえない」という。

今後、地方交付税が削減されることは必至だが、そうなると、これまでのように「あれもこれも」は無理だ。限られた予算で自治体を運営していくには、市民の声を吸い上げ、優先順位の高いものから実行する必要がある。また、地方分権化が進み、権限と財源が地方に委譲されても、現状の地方議会には荷が重い。

だが改革は簡単ではない。「議会改革が必要」と口をそろえるけれど、「市民への議会報告会のような大変なことはやりたくない」が本音かも。議員には改革は無理だと思う」と奥山氏はいう。ならばまずは、市民一人ひとりが議会をウォッチし、参加していくしかない。

とはいえ、各地の改革派議員も孤軍奮闘しており、改革の機運は各地で高まりをみせている。

(以下次号)